

寄稿

市立川崎高校（定時制）から川崎市職員になって

明石 洋子（1月30日記）

「わになろう」のみなさま、こんにちは！ すっかりごぶさたいたしております。

今回、新井先生から「わになろう」の会報の原稿依頼をいただき、10年以上も前に総会の司会をしたりしていた若かった頃の自分を懐かしく思い出しました。月日の経つのは速いものですね。当時中学生だった徹之はもう25才、りっぱな社会人です。と言っても自閉症が治ったわけでもなく、相変わらずこだわりも多く、今朝も、ふりかけのかかっているご飯は食べない彼は、「お弁当の中にふりかけあります」とこう言って確認し、7時半に、首を振り振りウキウキと飛ぶように走って仕事に行きました。公務員になってもう5年。小さなハプニングも感動にかえて、笑顔いっぱいの充実した日々を送っています。

本当に療育手帳Aだった（中学でB1、現在B2）彼が公務員になるとは想像もしていませんでした。ここまで成長できたのは、常に「地域と共に」あって多くの人から支えられてきたからだと感謝しております。自閉症という病名は誤解も多く、「地域に生きる」には苦勞が伴いましたが、現代医学では治療法がない以上、どこかに預けて治るということはありませんから、「いかにして自立できるか」を目標にすると、地域の中で一つ一つ学習していくしかありません。障害があるゆえに特別な指導や配慮が必要でも、地域の中でを前提に、専門家のアドバイスを受けながら分かりにくい行動の意味を探り、障害をありのままに認め、むしろその中から特長を見だし、必要な発達の手立てを工夫して育てました。本人の特性を知り、情報の伝達そしてスキルの獲得等は本人の能力以上に周りが工夫することで可能になります。そして、自主性を育てるために何よりも彼の意志を尊重しました。言葉のない時期でも選択の方法を工夫し、常に気持ちをくみ取りました。さらに、彼の人生を豊かにするために選択肢を豊富にと心掛けました。その結果彼は「高校・公務員」と予想以上の進路を希望し、自分で選択した道を開拓者として扉を開ける努力をしました。

障害者の高校入学にしても、当時県内で前例が皆無で、「受け皿がない」と受験することさえも断られました。断られた理由、その対応策、そして定時制を選んだ理由等紙面の都合で割愛しますが、最高の応援者の中学校計画学級の先生が、「徹之君ほど川崎高校生になりたかった生徒はいないね。後に続く人のためにがんばりなさい」と励まされた通り、彼は唯一受験できた高校を大切に誇りに思い、その頑張る姿が先生方の共感を得、その後次々に仲間が入学を許され、この10年間で高校への道がずいぶん広がったことを嬉しく思います。当時徹之の昼間の生活の場として作った「就労の拠点」の地域作業所「あおぞらハウス」に、現在も後輩たちがたくさん通っています。

徹之の高校生活は4年間で大学ノート19冊に、クラスや職員室、部活動でのいろ

んなエピソードや交流の様子が記録されていますが、相変わらずのハプニングの連続です。しかし、それが変化に富んだ清涼剤となって、先生も生徒も徹之との交わりを楽しんでくれました。学業の方も大好きな高校を辞めさせられたくない一心で、大雪の日も、大雨の日も一日も休まず頑張りました。入学当初の危惧も杞憂に終わり、高校生活の4年間は親では与えられない年齢相応の素晴らしい体験をしました。いちだんとたくましく成長した事実が、「かわいそうだから」と保護される道を選択してこなかった私に、自信と勇気を与えてくれて、次の公務員チャレンジも可能になりました。就労の経過等は紙面がなくなりましたので次の機会に譲ります。

さて、最後に一言。本当の優しさや思いやりは「かわいそう」と同情することではなく、理解し、必要な手助けを自然にすること。「人権を認める」ということは、意志を尊重して、地域の中で生きがいのある人生を送れるように保障すること、これを徹之を育てながら学びました。そして、“できるできない”は、障害の“軽い重い”ではなく、周りに理解し工夫する支援者がどれくらいいるかにかかっているように思えます。仲間づくりが大切ですね。これからも皆さん応援してください。

編集後記

高校を選んで進学した子どもたちが卒業後どんな道を歩んでいるのかぜひ知りたいという月例会で出された要望に応えたいと、原稿の依頼をしましたが、当初2～3名の方の報告をと考えていたため、1600字程度というたいへん失礼な字数制限をつけてしまいました。依頼した原稿の内容：高校を選ばれた理由やご苦勞、高校時代のように、卒業後の進路、現在の生活などについて、明石さんからは前記の寄稿原稿に添えて丁寧な手紙をいただきました。そのごく一部を抜粋して紹介させていただきます。

どのテーマも思い入れがあって、お話ししたい内容がたくさんあり、各テーマについては機会があれば（総会時にとのお話、OKします）ゆっくり、エピソードをもとに実践例をお話できればと思います。若いお母さん方には夢と元気を渡せます。（古い？お母さんでもヤル気があれば）

徹之の自閉症としての障害は重いものがありますが、自立や就労のために、本人が理解できるプログラムを作成し、人というパイプ役（幼い頃は親、その後はジョブコーチやコーディネーターか？）があれば能率よくできることが多々あります。《大事な内容ですが中略》

「普通学級がいい or 養護学校がいい」という論争ではなく、「地域で自立できる」教育ができる場というのが、大切と思っています。

できればお願いした総会での特別報告にも快諾をいただきましたので、この紙面でお伝えしきれなかったことは、6月の第17回総会にご期待ください。〈新井〉

障害児に進路を保障する連絡協議会 会報「わくわく」より
1998年2月10日発行(16/48)